

主治医から見た統合失調症家族心理教育の意義に関する検証

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-11-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 辻, かをる メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31571

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2901 号	氏 名	辻 かをる
審 査 委 員 会	主 査 教 授	永田 智	
論文審査の要旨（400 字以内） 統合失調症の家族心理教育は、患者や家族に関して強いエビデンスが示されているが、実際の臨床の場において医師が感じる効果や評価の報告はほとんど知られていない。本研究では、主治医の立場から家族心理教育(家族会) に参加した家族の変化がどう感じられたかを明らかにし、家族心理教育の意義と治療のなかでの位置づけについて検証を行っている。その結果、家族心理教育は有益と評価され、主治医は介入対象たる家族のアウトカムを期待し、家族心理教育は、家族の状態改善をもたらすという役割を持つものと考えられた。即ち、実際の臨床の場においても、統合失調症の治療医が家族心理教育の効果を実感し高く評価していることがわかった。この論文発表によって、全国的に統合失調症の治療に家族心理教育が取り入れられ、同疾患に苦しむ患者を救う重要な一歩になることを考えると、同論文の意義はたいへん深く、学位授与に値する内容と思われる。 本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。（本学学会雑誌に公表）【学校教育法学位規則第 8 条】			